A　☆　個別の教育支援計画（例）　～学年１枚型～

○○立○○小学校　　個別の教育支援計画　（作成日：令和○年○月○日）

氏名	学年	生年月日		作成者	
障がい等の状態 学習上･生活上の困難さ					
障がい名・疾患名					
本人の思い （学校生活での希望､進学先、将来について等）					
保護者の願い （本人の将来の姿等）					
本人の良さ・興味関心・遊び・強み等					

本人・保護者と確認し記入します。
また、思いや願いを聞くアンケート等を活用して情報収集します。

収集した情報から、本人の今（抱えている困難さ等）と将来を考え、どのような支援が必要で、可能であるか、支援目標を立てるまでの理由を記述。引き継ぎの際にプロセスが分かり伝わりやすくなります。

整理することで、どういう方向に向かって支援するのか、明確になります。

（支援目標設定の理由）

支援目標（◎支援○指導）

本人・保護者、関係機関と支援目標を設定していきます。
①必要な支援　　②困難さを改善するための適切な指導
を明確にすることで、一貫した支援、指導につながっていきます。

各連携機関の支援内容等	
機関名	**支援内容**

支援目標に対して、各機関が取り組んでいる支援内容を記載します。

支援内容・方法（個別に必要とする合理的配慮等）	**支援の評価**
【教育内容・方法】 **【支援体制】** **【施設設備（学校)】**	

合理的配慮＊1の３観点 11 項目の３観点です。
支援内容については、本人を取り巻く基礎的環境整備等が変化したり、本人の障がいによる困難さが指導を受けたことによって改善したりすることがあるので、**必要に応じた柔軟な見直しが必要です。**
＊個別に必要とする支援内容ですので、たくさん書く（記述して埋める）必要はありません。

本人にとって、支援内容は適切だったかを評価します。

上記の内容を確認しました。

令和○年○月○日　　児童生徒名（　　）
保護者名　（　　）

個別に必要とされる合理的配慮を確実に実施し、引き継ぐためには、医療等との連携が不可欠です。**本人にとって必要な合理的配慮について、医療等からの意見は、個別の教育支援計画の支援内容の設定の根拠となる資料になります。ファイルに一緒に綴じておくと便利です。**

＊１　合理的配慮に関しては、第Ⅲ章－２『合理的配慮の提供に当たって』（142ｐ～）をご覧ください。